

## 平成 25 年度「卒業生アンケート」集計結果の分析

大学教育センター教育開発部門

平成 26 年 1 月 27 日～3 月 20 日の間、平成 25 年度の卒業生に学内専用ポータルサイト「ゼルコバ」を利用して、「福山大学での学修を振り返るアンケート調査」（以下、「卒業生アンケート」）に対する回答を依頼した。卒業生アンケートは、「福山大学での学びを経て、入学前と比べてあなた自身はどのように変化しましたか」（以下、「変化」）（設問 01～20）、「あなたは同年齢の人たちと比べて、どのように自己評価しますか」（以下、「比較」）（設問 31～50）および「福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか」（以下「満足度」）（設問 21～30）という 3 つのカテゴリーに分かれており、それぞれについてレーダーチャート化し、全学的傾向を分析した。なお、卒業生の回答率は 55.4%であった。

### 分析結果および所見

#### (1) 「変化」について（図 1）

すべての項目が「3」（変わらない）以上の 3.5～4.0 の数値を示しており、入学前と比べて成長を実感していることがわかる。特に「一般的な教養」「専門的知識・技能」「コンピュータの操作能力」「自己理解」「協調性」は、「4」（やや向上した）以上となっており、顕著な成長を実感しているようである。一方で、「体の健康」「外国語の能力」は 3.1 となっている。「体の健康」に関しては、栄養、睡眠、運動の 3 要素が重要であるが、いずれも大学生活の上で自己管理が困難な学生が多いことが推察される。また、「外国語の能力」に関しては、外国語科目の履修が 1, 2 年次に集中していること、高校と比較して英語科目の履修時間が少ないことが影響していると考えられる。

#### (2) 「比較」について（図 2）

「変化」のレーダーチャートと比較するとチャートの開口面積が小さく、ほぼ均等に「3」（同じくらい）を示している。これは同年齢の他者の平均像がつかみにくく、平均的な回答をしたことが原因の一つと考えられる。

#### (3) 「満足度」について（図 3）

すべての項目が「3」（普通）以上の数値を示しており、特に、「共通教育（一般教養）の授業」「専門分野の授業」「授業の全般的な質」「大学での経験全般について」は、それぞれ、3.6, 3.8, 3.5, 3.6 という数値であり、各項目の中では満足度が高くなっていた。

### 総括

平成 25 年度卒業生は、入学前と比較した「変化」と「満足度」の結果から、福山大学における学修成果を実感しているとともに、大学生活に対しても概ね肯定的に評価をしていた。但し、「体の健康」「外国語の能力」などの比較的评价が低かった項目に対しては、生涯のキャリアを見据えての健康増進、語学力強化の必要性を意識できる環境作りが必要である。このような点検に基づく教育改革は、肯定的評価を向上させるために肝要であり、何よりも卒業生の確かな学士力保証へ繋がるであろう。

なお、同年齢の他者との比較に関する優位性は明瞭でなかった。原因の一つに、周辺に大学が少なく、かつ周辺大学との交流も活発でないため、評価基準が形成できていないことがあげられる。したがって、今後は周辺大学との交流の機会を提供するとともに、グローバル化に向けて海外の提携大学との国際交流も活性化する必要があると考えられる。

福山大学での学びを経て、入学前と比べてあなた自身はどのように変化しましたか。

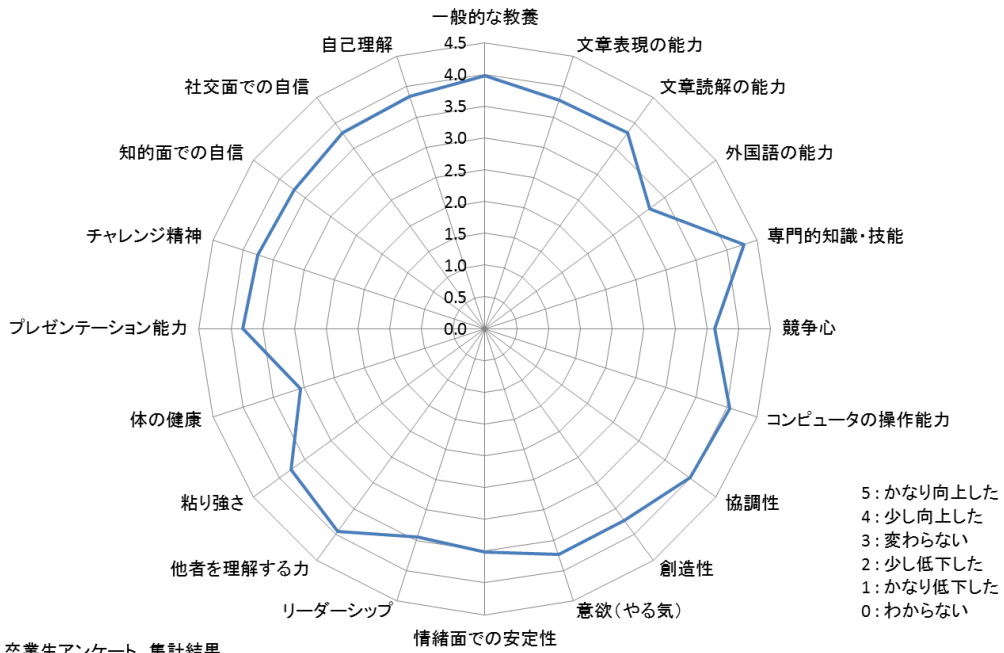


図 1 学生の変化を問う設問群の集計結果<全学>

あなたは同年齢の人たちと比べて、どのように自己評価しますか。

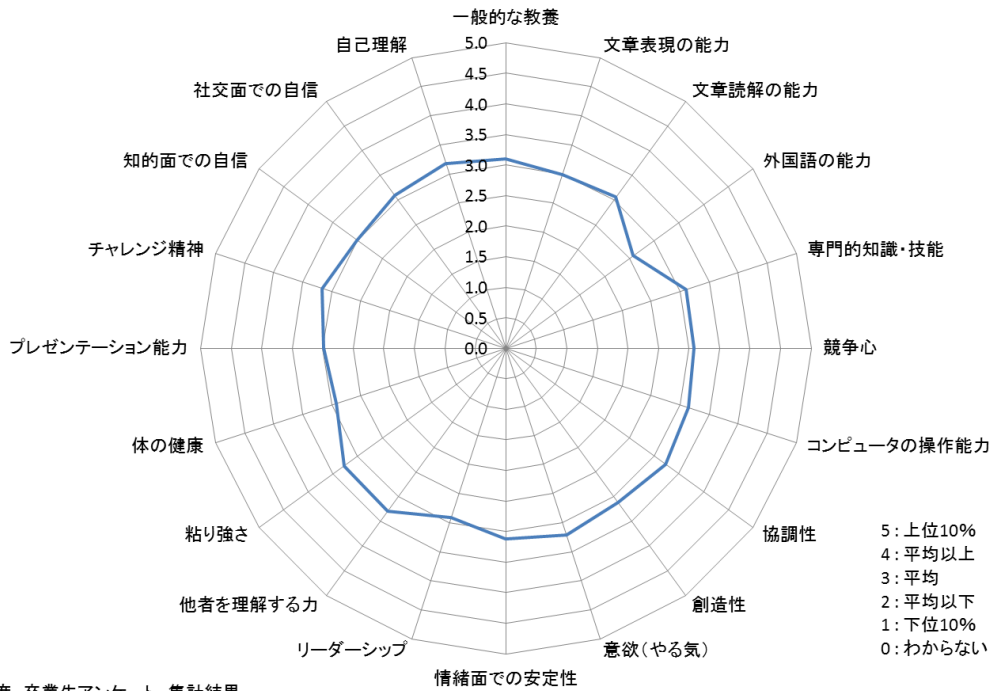


図 2 他者との比較に関する設問群の集計結果<全学>

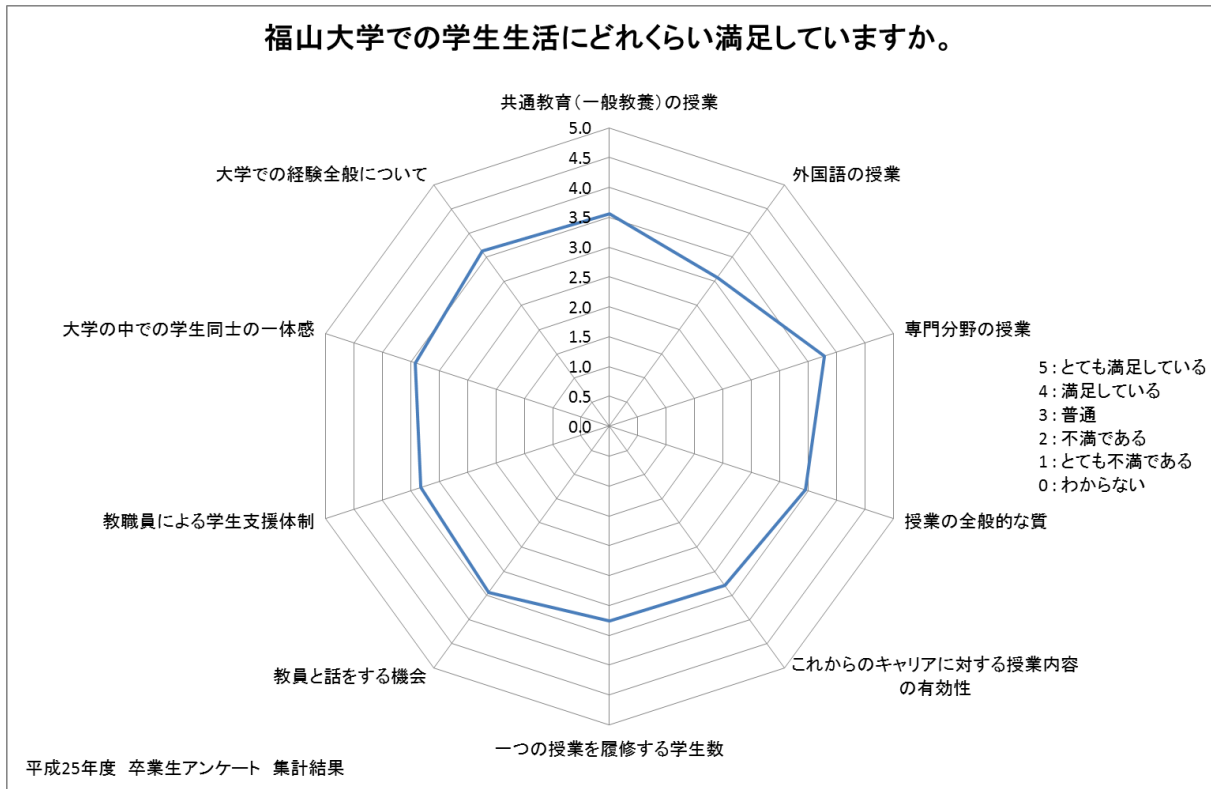


図 3 満足度を示す設問群の集計結果<全学>